

温室メロン病害虫防除暦
防除体系(登録薬剤)

JA庄内たがわ令和7年度(2025)版
2025年01月01日時点の農業登録情報をもとに作成

防除時期	主な対象病害虫	RACコード	登録農薬名	希釈倍数・使用量	水100%当たり 薬剤量	使用時期※1	使用回数	備考
定植前	コガネムシ類幼虫 ネグサレセンチュウ・ネコブセンチュウ	I:8A	DC油剤(劇)	20%/10a (1穴当たり2ml)	-	作付の10~15日前まで	1回	全面処理又は作条処理(D-Dを含む農薬の総使用回数1回)
	一年生雑草・つる割病・センチュウ類	I:8F、I:8A	ディトラベックス油剤(劇)	30リットル/10a	-	は種又は植付の30日前まで		圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12~15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7~14日後にガス抜き作業を行う。 (D-Dを含む農薬の総使用回数1回)
育苗期	疫病・炭疽病・つる枯病・斑点細菌病・べと病	F:M03	ジマンダイセン水和剤	400~600倍	166~250g	収穫7日前まで	5回以内	
	アブラムシ類・ウリハムシ・ハダニ類	I:1B	マラソン乳剤	1,000倍	100ml	収穫前日まで	3回以内	
育苗期後半~ 定植時	アブラムシ類、アザミウマ類、コナジラミ類	I:28	ベリマークSC	薬量 400株当り25ml	希釈水量 400株当り10~20l	育苗期後半~定植当日	灌注1回	
生育期 (殺菌剤)	うどんこ病・陥没病・つる枯病	F:3	トリフミン水和剤	3,000倍	33g	収穫前日まで	5回以内	
	うどんこ病	I:UN、F:M10	モレスタン水和剤※2	2,000~4,000倍 100g/10a	25~50g -	収穫3日前まで	10回以内	散布 常温煙霧・温室、ガラス室、ビニールハウス等密閉できる場所で使用
	つる枯病・菌核病	F:2	ロブラール水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	4回以内	
	つる枯病・陥没病・菌核病	F:1	トップジンM水和剤	1,500~2,000倍	50~66g	収穫前日まで	3回以内	
	つる枯病・うどんこ病	F:M07	ベルコート水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	5回以内	イミノクタジンを含む農薬(総使用回数5回以内)
	つる枯病・ハダニ類・アザミウマ類・うどんこ病	F:M07、F:19	ポリベリン水和剤	1,500倍	66g	収穫前日まで		
	つる枯病・うどんこ病・べと病	F:11	アミスター20フロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内	
	つる枯病	F:M05	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫3日前まで	5回以内	交配後30日以降
べと病・うどんこ病	700倍			142ml				
生育期 (殺虫剤)	トマトハモグリバエ・タバココナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	I:15	カスケード乳剤	2,000倍	50ml	収穫7日前まで	3回以内	ミツバチ放飼中~以降の影響に注意してください。 マルハナバチ基準:放飼2日前まで
	アザミウマ類・ウリノメイガ・ハモグリバエ類	I:5	スピノエース顆粒水和剤	5,000倍	20g	収穫前日まで	2回以内	マルハナバチ基準:放飼3~7日前まで
	アザミウマ類・ウリノメイガ・オオタバコガ・コナジラミ類 ハスモンヨトウ・ハダニ類・ハモグリバエ類	I:30	グレーシア乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	
	アブラムシ類	I:9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍	20g	収穫3日前まで	4回以内	
		I:4A	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	8,000倍	12.5g	収穫3日前まで	3回以内	マルハナバチ基準:放飼1日前まで
		I:3A	アディオオン乳剤	2,000~3,000倍	33~50ml	収穫前日まで	5回以内	合ピレ※3 マルハナバチ基準:放飼20日前まで
	アブラムシ類・ハダニ類・タバココナジラミ類	I:3A	テルスター水和剤	1,000倍	100g	収穫前日まで	4回以内	合ピレ※3 マルハナバチ基準:放飼30日前まで
	アザミウマ類、コナジラミ類 ウリノメイガ・ハモグリバエ類	I:6	アフーム乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	マルハナバチ放飼2日前まで
ハダニ類	I:21A	ダニロンフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	1回	殺ダニ剤※3 マルハナバチ基準:放飼1日前まで	
	I:20B	カネマイトフロアブル	1,000倍	100ml	収穫前日まで	1回	殺ダニ剤※3	
	I:6	コロマイト乳剤	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	コナジラミ類、ハモグリバエ類にも適用あり、殺ダニ剤※3	
	I:10B	バロックフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	殺ダニ剤※3	

※1:使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※2:モレスタン水和剤を煙霧用として使用する場合、常温煙霧機により所定の方法で煙霧する。

作業終了後は6時間以上経過してから開放する。 100g(5%) / 10a 収穫3日前まで 散布と合わせて10回以内

※3【合成ピレストroid剤、殺ダニ剤使用上の留意点】
合成ピレストroid剤(アディオオン乳剤・テルスターフロアブル)、殺ダニ剤は使用回数が多いと抵抗性害虫が出現しやすい為、ローテーション防除を行い、連用は避けてください。

☆農業安全使用及び適正管理について☆

1. 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がけましょう。
2. 適切な栽植密度とし、通風・作業性をよくしてください。
3. 圃地の適切な排水管理に努めてください。
4. 病害虫の温床となるものについては随時・適切に処理してください。
5. ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等を出来る限り使用しましょう。
6. みつばちへの配慮を行いましょ。

防除器具の農薬残留に留意！！

- ・防除器具は、前回散布後に充分洗浄したか確認し、散布当日も薬剤調整後にもう一度通水し洗浄しましょう。
- ・防除器具は使用後、通水で3回以上洗浄しましょう。
- ・洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。